

渥美郡三町の時代



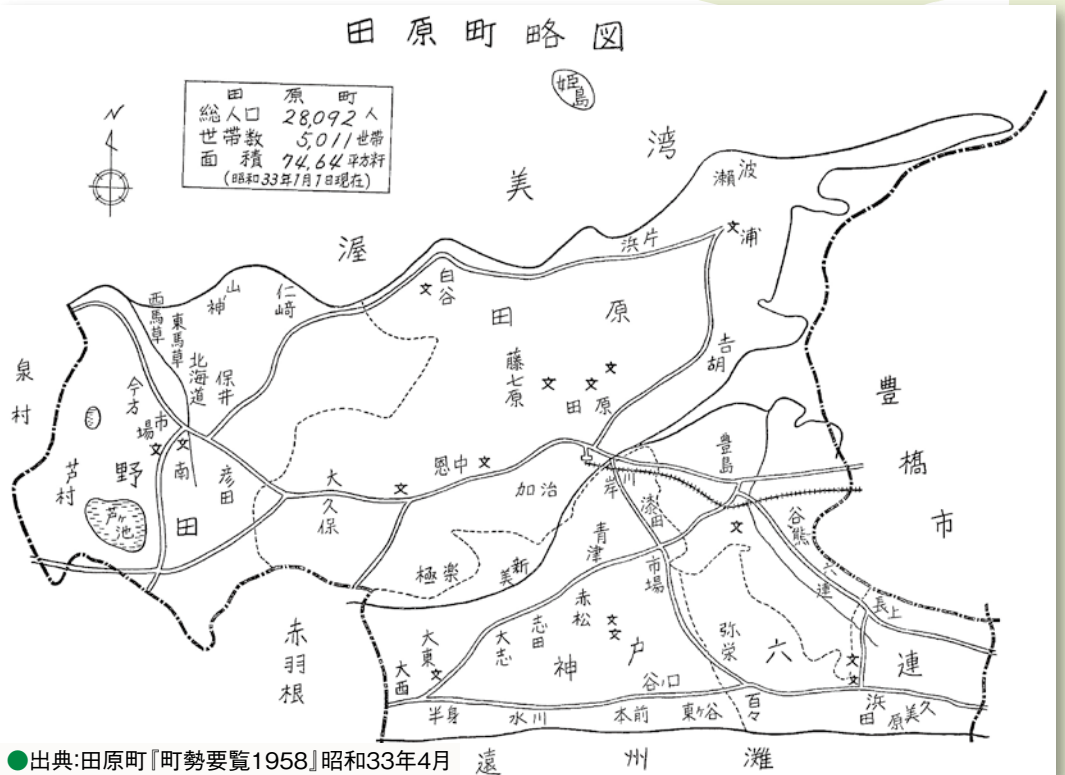
郷土史編さん室 ☎36局6503

昭和30年ごろの田原町と合併時のまちづくりの基本方針

昭和30年（1955）1月1日、田原町・神戸村・野田村の3町村が合併して、新田原町が誕生。同年4月1日には杉山村の六連地区が田原町に編入合併され、新田原町の面積は78・35km²、人口2万8101人、戸数4972戸（いずれも「合併申請書」の数値）となりました。同年3月に策定された「田原町建設計画」では、新町建設の基本方針を次のように定めています。（原文を基に一部表記を改めました。）

「田原町は気候温暖な自治体であり、東京、大阪、神戸、名古屋等大都市に対する輸送園芸および農産製品の供給源として活発に行われているので、これをさらに強化確立するために、これらを基盤としての総合

商工業の振興を期し、内外漁業の生産を高め、農漁一体の興隆方針を樹立する。又、本邦屈指の考古学的資料、渡辺筆山を中心とする史跡、幾多の景勝地等多面にわたる資源を更にかし観光の開発を行うものとする」



●出典：田原町『町勢要覧1958』昭和33年4月

開発を行うため、全面的に土地改良を促進すると共に、特色ある農業形態を活かし多角的農業経営をはかりその発展を図る。この方針と相まって現在着工中の隧道（白谷トンネル）完成に伴い、将来港湾を開発し産業製品の輸送を計ると共に港を利用する近代産業の発展と、工場誘致をはかり

上の田原町略図は、合併後の昭和33年に発刊された『町勢要覧1958』の冒頭で紹介されています。合併前の町村境が点線で表示され、田原、神戸、野田、六連と大きく書かれています。三河湾（渥美湾）側の埋立造成地はまだみられず、砂州が長く海上に突き出しています。道路事情や小中学校の状況も現在とは違って部分があります。この昭和の合併を起点として、まちづくりが推進され、豊川用水の通水と土地改良、臨海部の造成と企業誘致などの転機を経て、この地域は大きく変わっていくことになりました。（執筆委員・安井俊則）

今月の「表紙」

今年もあと2週間、時間だけがせわなしく過ぎていきます。少し気分転換をしようと、普段は横を通り過ぎる公園の中へ入りました。すると、冬の寒空に向かって咲く鮮やかな色の花が。力強くも気品あるその姿にすっかり見入ってしまいました。来年も身近な場所での「癒し」を見つけたいものです。（H）

【表紙の写真】椿の花（つばき公園）